

# 救急隊

**救急隊**は救急自動車を活用し、急病、災害、不慮の事故等で負傷した傷病者を病院へ搬送する部隊です。

現場に到着するまでに必要な資機材を準備し、接触後は速やかな究明処置を行うことはもちろん、傷病者本人や家族の方々の不安も取り除くのが救急隊の使命です。



Ambulance  
Emergency

救急隊になるためには2つの方法があります。1つ目は、採用後に消防学校に入校し**救急科**程を修了すること、2つ目は、採用前に**救急救命士**の資格を取得するという事です。また、救急隊員に求められる要件として、救急現場では人と人との関わりが非常に重要となるため救急の知識・技術だけでなく高いコミュニケーション能力が必要不可欠です。更に相手の立場で物事が考えられ、様々な現場に出動するため強い心を持っていること等が求められると思います。

救急救命士  
特定行為



## マイルール



現場では市民の命を守るのに阿吽の呼吸が非常に重要になるため、チーム力強化とコミュニケーションの取れた隊を作るのが重要であります。

そのため、日頃から隊員間で、何でも言い合え、教え合う事等ができ、隊員が働きやすい環境を作るよう隊長として、心がけています。



西消防署 大洲出張所 救急隊長  
**佐竹 明子** 消防司令

平成 3年 採用  
平成 6年 救急標準科 卒業  
平成16年 救急隊拝命  
平成22年 救急救命士 取得

## 救急隊長としての使命

隊長として、緊急度・重症度が高い救急現場でも慌てることなく、冷静、沈着、的確に隊員に指示を出し、隊が円滑に活動できるように心掛けると共に救急出場した時には、傷病者の気持ちになって接するようにしています。

また、家に帰れば2児の母親として家事をしています。当直勤務の時は、1日会うことはできませんが、その分子供と一緒にいられる時間がとても大切と感じています。





# 指揮隊

## 現場指揮 大規模災害

**指揮隊**は火災等の災害時に、警防隊、救助隊、救急隊等の複数の部隊が連携して活動を行う現場で指揮・統制を行う部隊です。

各種災害現場での安全管理はもとより、災害現場での必要な情報収集と分析、そして現場活動が円滑に遂行するよう指示する事を目的に設置された隊です。



市川市の指揮隊は東西南北の4消防署に各1隊を配備し、**大隊長**、**指揮隊長**(情報担当)、**機関員**(無線担当)の3名で運用しています。

指揮隊になるには様々な現場経験と広い視野で瞬時に現場の状況を把握する力が必要です。また、探究心を持ってどんな環境にも対応できる人が向いています。



東消防署 指揮隊長

## 板井 隆弥 消防司令長

昭和55年4月 採用

昭和57年4月 特別救助隊 拝命

平成13年4月 警防隊 拝命

平成26年4月 西消防署国府台出張所所長

平成29年4月 東消防署第1大隊指揮隊長

### マイルール

人を救う立場にある消防士にとって大事なのはやはり、最後まであきらめない強い気持ちを持つ事。どうにもならない状況でも、諦めずに活動する事で状況が好転することが多々ありました。

また、何事も下を向きながら行うのは辛いと思います。きつい訓練、難しい業務、どうせやるなら物事を楽しもうという気持ちを持って、前向きに行うようにと思っています。

### 忘れられない現場

交通事故現場で、事故車両から火災が発生したと共に重篤な傷病者が数人おり、ドクターヘリコプターが往復搬送した事案がありました。消火活動と同時に救急活動、並びに周囲の安全確保やドクターヘリとのやりとりが必要な騒然とした現場で、私が今まで経験した中で一番大きな災害でした。

しかし、そんな状況の時こそ冷静に、今まで経験した現場や訓練を思い出し、各隊への指揮や関係機関とのやりとりを行いました。

大きなプレッシャーを感じた現場でしたが、現場に携わった方々の協力で早期に収拾する事ができ、改めて隊連携の大切さを学びました。





# 消防艇隊

**消防艇隊**は、千葉県では千葉市と市川市にしか配備されていない、船舶火災や水上事故に対応できる部隊です。消防艇隊は、高谷出張所に配備されています。出動範囲は東京湾全域となっており、船舶火災をはじめとする様々な海上災害に対応する部隊です。

また、沿岸部には石油コンビナート等の施設が点在しコンビナート火災が発生した場合には海上から炎上しているタンク等に対する火災防ぎょにも対応しています。



水難救助  
水上事故



## 消防艇ちどり

消防艇を運用するには、**小型2級船舶**以上の船舶免許が必要となります。船は自動車とは異なり、ブレーキはなく、風や波の影響を直接受け、その場に停船していることが出来ません。そのため、常時船の周囲の監視体制が重要となり、相当な集中力が必要となります。

また、陸上とは異なり一度海上に出ると、簡単には船から下りることができないため、体力、忍耐力、集中力、注意力がなければ務まりません。





## マイルール

何事に対しても、「基本なくして応用なし」が私のルールです。また、資機材の取扱いなどに際しても、いつも同じルーティーンで実施することが、事故防止及び円滑な職務遂行につながると信じて実施しています。

東消防署 高谷出張所 消防艇隊

## 松井 保憲 消防司令

平成 5年 採用  
平成19年 機動化学隊 拝命  
平成24年 消防艇隊 拝命



## 仕事にかける思い

陸上、海上を問わず、様々な現場に出動してきました。その中で、消防艇隊として出動した現場で、潮干狩りをしていた方が数名溺れ亡くなるという痛ましい事故がありました。我々が救える命がどの位あるのかわかりません。だからこそ、我々はどの事案に対しても1人でも多くの方々のためになれるよう、全力で職務を遂行しなければなりません。消防という仕事は、悔しい思いをすることもありますが、携わった方々の笑顔を見られた時は、何とも言えない喜びを感じられます。





# 警防隊

**警防隊**とは、火災時に放水して、消火活動を行うのが主な業務ですが、近年の多様化する災害に対応すべく、救急隊の支援活動(PA連携)や、救助現場で救助隊と合同で救助活動にあたり、ドクターヘリ飛来に伴う危険排除を行う等、様々な災害現場で活動する消防の基本部隊です。

危険排除  
PA連携

## 消火活動

市川市消防局では消防ポンプ自動車14台、化学消防車3台を配置。その他にも大型化学高所放水車や泡原液搬送車、ブローカー車等の特殊な車両も運用しています。



## 求められる人材



指示されたことに対して、迷うことなく完結するまで突き進む素直さ  
と行動力、さらに長時間にわたり過  
酷な災害活動に耐える体力や  
多種多様化する災害現場に対応  
する技術を身に付けるため、日々  
努力できる人。



南消防署 広尾出張所 ポンプ隊長

**金田 浩二** 消防司令

## 忘れられない現場

建物の地下1階に居住していた方が、大雨により部屋の天井から50cm位のところまで浸水し、残された空間に閉じ込められているという現場がありました。当時、他の現場から連続で出動したため、水難救助用の資機材は何も無く、水没していた地下へ下る階段から冷たい水の中を泳ぎながら進みました。扉を開け、部屋の中へ進入し要救助者と接触した後、同行した隊員と協力して、要救助者を補助しながら泳ぎやっとの思いで1階へ救出しました。

この時、消防士という立場である以上、どんな現場でも助けを求めている人のために最善を尽くさなければならないと改めて感じました。

消火活動だけでなく、様々な業務や災害に対応すべく日々向上心を持って仕事に臨んでいます。



昭和 62年 採用  
昭和 63年 特別救助隊 拝命  
平成 20年 機動化学隊 拝命  
平成 29年 広尾出張所長 任命



# 高度救助隊

**救助隊**は、火災をはじめ交通、水難、自然災害などの各種事故の際に要救助者の生命、身体の危険を排除するために、高度な知識と救助技術、そして様々な資機材を活用して救助活動を行う、救助のエキスパートです。



IRIT  
高度救助隊

RESCUE  
緊急消防援助隊

市川市消防局は平成26年4月に首都直下地震などの大規模災害に備え「**高度救助隊**」を発足しました。高度救助隊は、専門的な教育を受けた隊員を中心に18名で構成され、画像探査機、地中音響探知機、地震警報器等の高度資機材を活用し、通常の救助隊では対応が難しい災害現場に対応する部隊となっています。



## マイルール

災害現場では要救助者や傷病者の立場になって常に物事を考えるようにしています。助けを待つ市民が自分や自分の家族だったら・・・そう考えることで今自分に何を求められていて、何をすべきか自ずと答えが出てきます。



## 求められる人材

乗車する救助工作車は、大型自動車免許の資格や、積載している小型移動式クレーンを運用するための技能等も必要です。そして何より「絶対にあきらめない」という強靱な精神力が求められます。



東消防署 高度救助隊

齊藤 貴志 消防司令補

平成16年	採用	
平成16年	救急救命士	取得
平成17年	機動化学隊	拝命
平成18年	特別救助隊	拝命
平成19年	救急隊	拝命
平成23年	特別救助隊	拝命
平成26年	高度救助隊	拝命

## 仕事にかける思い

私が特別救助隊を拝命した時、ある先輩に「大きなことを成し遂げるには小さなことの積み重ねが大切なんだ。」そう言われたことがありました。現在はその言葉を胸に、些細なことに気が付き、当たり前のことを当たり前に行える救助隊員になれるよう日々訓練を重ねています。これまでに出勤した災害現場では辛く、悲しい現場を数多く見てきました。その度に己の力の無さを痛感しています。だからこそ市民の方々が安心して、私たちに笑顔を見せてくれた時、この仕事を選んで良かったと心から思います。生まれ育ったこの市川市で、一人でも多くの人の笑顔に出会えるよう小さなことを積み重ねていきます。

